

学級担任における 構成的エンカウンターグループの活用方法について

11004EMM

矢倉将伍

学校現場では、いじめや不登校などの問題が起きる前に全ての子どもに行う「一次的教育援助」の重要性が叫ばれている(河野・宮下,2011)。

学級の中には「いじめ・不登校が起きている」「トラブルを起こす,友達にかかわろうとしない,年齢なり人間関係がもてない」「聞く・話すというコミュニケーションできない」といった子ども側のニーズと「子どもたちの心の成長を促すような理論的で効果の確かな働きかけをしたい」「授業を子どもたちの心に迫り,かつ子どもたちが熱心に取り組む授業に改善したい」という学級担任のニーズがある。構成的エンカウンターグループは“心とこころのふれあいを体験するためにリーダーが用意した課題(エクササイズ)を遂行する集団指導”(國分,2000)であり,これらのニーズに応える効果的なアプローチの一つである。

本論文では,構成的エンカウンターグループの手順を整理し,学校現場でグループ・アプローチを実践してきた熟練の教員に構成的エンカウンターグループについてインタビューを行った。インタビューをもとに事例研究を行い,学級で構成的エンカウンターグループを用いる際の活用方法,問題,注意点について検討した。

様々な角度から学級のアセスメントを取った上で目標設定をすること,長期的な見通しをもって実践に取り組むこと,学級担任はリーダーとして最低限の知識やカウンセリングマインドをもって実践に臨むこと,学校全体の理解と支援体制が求められることなどが学級での構成的エンカウンターグループ実践のポイントである。

子どもの頃から予防・開発的援助を受けることが,自他を思いやる温かい集団作りや問題に負けない心を育てる一助となる。